

## 「ながら（も）」の意味・用法について

### — 逆接を中心として —

金 勝 漢

(人文大 日語日文學科)

#### 〈 目 次 〉

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. はじめに            | 3.2 形容詞系述語    |
| 2. 「ながら」節の形態的特徴    | 3.3 名詞、副詞、判定詞 |
| 3. 「ながら」節の述語の種類と逆接 | 4. 「ながらも」     |
| 3.1 動詞系述語          | 5. まとめ        |

### 1. はじめに

日本語の「ながら（も）」は前件の事柄と後件の事柄を繋ぎ合わせる働きをする。「ながら」によって結合される前件と後件は概括的に言えば、二つの動作・状態が共存する関係にあることを表わすのに用いられる。

- (1) 救急救命士は、醫師と連絡を取りながら、高度な應急處置を行うが、ここで必要になってくるのが、醫療機器と十分なスペースを持つ高規格救急車だ。(産経新聞「以下、産経」、920206)
- (2) 鹿島は後半、得點機をつかみながら、追加點を奪えなかったのが響いた。(毎日新聞「以下、毎日」、950622)

(1)の場合、前件の「醫師と連絡を取る」と、後件の「高度な應急處置を行う」は同時進行を表している。(2)の場合は、前件「得點機をつかむ」と、後件「追加點を奪えない」は互いに意味的に矛盾して

いる。つまり、(2)は逆接関係で結ばれている。前件と後件の関係が逆接になる要因には、述語の種類、前件と後件の意味、取り立て助詞「も」などが関わっていると思われる。

そこで、本稿では「ながら」構文が逆接に解釈される要因について、詳しく考察することにする。

## 2. 「ながら」節の形態的特徴

「～ながら」はいろいろな語に接續する。動詞や助動詞「られる・させる」、「～ている」などの連用形につく。

- (3)世の中には、ときどき「なるほど、もっともだ」と思って聞きながら、  
どうも腑(ふ)におちない話がある。  
(朝日新聞「以下、朝日」、880515)
- (4)市民ボランティアを含む数千人の救助班は新たな崩壊の危険にさらされながら、必死で救助作業を続けた。  
(産経、950630)
- (5)それ(シェーンベルク作曲、グレの歌)をアバドが、室内樂的な造型感で、隨所に静けささえ感じさせながら、ち密に指揮している。  
(毎日、950524)
- (6)スウェーデンは競技面で冬季五輪に大きく貢献しているながら、まだ一度も開催権を與えられていない。  
(毎日、950614)

形容詞の場合は基本形につくが、形容動詞の場合は語幹に接續する。助動詞「～ない」にはつくが、助動詞「たい・らしい」にはつかない。特に、打ち消しの助動詞「ない」の場合は、「ない・ぬ・ず」の三つの形につく。

- (7)局面は細かい。しかし記者室で進行を見守っていた小林覺棋聖によると、細かいながらも、「白持ち」というニュアンスだった。  
(毎日、950503)
- (8)極東ロシア軍は、依然として大規模な戦力を蓄積、緩やかながら近代化も行われ、アジア太平洋地域の安全に不安定要因となっている。  
(産経、950630)
- (9)子どもたちは、よくわからないながらも、先生の話をおっしんに聞こ

うとしている。

(外国人のための基本語用例辞典「以下、基本語用例辞典」:743)

(10)歌う生徒らの間にまじって、わが子も歌っているのである。耳は聞こえぬながら、ふしは整わぬながら、大きく口をひらいて、高らかに歌っているのである。(国立国語研究所:130)

(11)及ばずながら、あなたにご協力いたしましょう。

(基本語用例辞典:743)

その他、判定詞「である」の連用形、名詞、副詞、取り立て助詞などにもつく。

(12)地震國でありながら、「安全神話」によりかかり、行政も國民も備えを怠ってきた。(讀賣新聞「以下、讀賣」、950624)

(13)日本は5安打ながら、井口の本壘打などで少ない好機をものにした。(朝日、950524)

(14)換氣扇の生産額は一九九三年度約千二百億圓だが、わずかながら増えている。(毎日、950604)

(15)現在の中國には、肩書きは黨、國家の中央軍事委員會主席だけながら最高指導者と言 かってよい鄧小平氏がいるが、……(讀賣、890927)

### 3. 「ながら」節の述語の種類と逆接

#### 3.1 動詞系述語

金田一春彦は「國語動詞の一分類<sup>1)</sup>」で、「～ている」という形を取るか取らないか、取る場合、ふつうどういう意味になるかによって、日本語の動詞を「状態動詞、繼續動詞、瞬間動詞、第四種の動詞」の四つに分類している。これらの動詞が「ながら」節の述語として用いられる場合<sup>2)</sup>、その「ながら」構文が同時進行に解釋されるか逆接に解釋されるかについて調べることにする。

1) 金田一春彦(1976)、「日本語動詞のアスペクト」、むぎ書房、pp.7~26

2) 「第四種の動詞」は、常に「～ている」の形で用いられるので、「ながら」が直接「第四種の動詞」には下接しない。

### 3.1.1 状態動詞「ある」

(16)山田さんはたくさん金がありながら、まずしそうな生活をしている。

(基本語用例辞典：743)

(17)日本のマスコミの集中的な取材や、日本のファンの期待などいろいろなプレッシャーがありながら、冷静に對處してきたことは、投手としてではなく、素晴らしい若者として評價する。

(ドジャース・ラソーダ監督の野茂投手に對するコメント)

(毎日、950604)

(18)自民黨は昨年夏、比較第一黨として政權を取れる立場にありながら、第二黨の社會黨以下の衆院七黨の連立によって政權の座から追われた。

(讀賣、940409)

(16)で、「たくさんお金がある」と、「豊かな生活をする」のが一般的である。しかし、一般的なこととは裏腹に「たくさんお金がある」が、「まずしそうな生活をしている」のである。(16)の前件と後件は、矛盾し合う意味關係をなしている。(17.18)で、前件「いろいろなプレッシャーがある、比較第一黨として政權を取れる立場にある」と、後件「冷静に對處する、第二黨の社會黨以下の衆院七黨の連立によって政權の座から追われる」は、それぞれ、互いに矛盾する事柄である。

逆接的な用法とは、共存する二つの事柄が内容上矛盾する關係にあることを表すものである<sup>3)</sup>から、(16~18)の「ながら」構文は逆接關係にある。また、(16~18)で、「ながら」節の述語「ある」の特徴は所有・存在を表す状態動詞である。「ながら」節の述語が状態性を表す場合、その「ながら」構文は逆接に解釋されると言うてよいだろう。

### 3.1.2 繼續動詞

「ながら」節の述語が繼續動詞である時、その「ながら」構文は同時進行になる場合と逆接になる場合がある。

3) 松村 明(1971)、「日本文法大辭典」、明治書院、p.587

- (19) 醫者は患者の経過を見ながら、使う薬を加減する。(横林1988:74)
- a. 醫者は患者の経過を見る。
  - b. 醫者は使う薬を加減する。
- (20) 救急救命士は、醫師と連絡を取りながら、高度な應急處置を行うが、ここで必要になってくるのが、醫療機器と十分なスペースを持つ高規格救急車だ。(産経、920206)
- (21) 一人の盲目の少年は、見事に樂器を打ち鳴らしながら、古いセイロンの悲劇を歌っていた。(日経、950625)

(19)を、(19a.b)のような二つの文にすることができる。主體「醫者」が「患者の経過を見る」と「使う薬を加減する」との二つの動作を同時に行うことである。

(20.21)の場合も、前件「醫師と連絡を取る、見事に樂器を打ち鳴らす」と後件「高度な應急處置を行う、古いセイロンの悲劇を歌う」が、それぞれ、同時に行われている。

「ながら」構文の前件と後件が同時進行である場合、同一主體がある動作・作用を一方で行なうのと同時に、平行して他の動作・作用をも行なうという関係を表す。「ながら」構文が同時進行に解釋される場合、その述語は、「見る、取る、打ち鳴らす」のように、繼續動詞であるのが特徴である。

次は、「ながら」節の動詞が繼續動詞であっても、逆接に解釋される場合である。

- (22) 米國は70年ごろから貿易赤字を續けながら、基軸通過の特權を維持してきた。(産経、920206)
- (23) 同じ地域に住み、同じ學校で學びながら、いじめをする生徒と、そのような心配は全然ない立派な生徒がいる。(毎日、950414)
- (24) 一方、流通業も「價格破壊」を唱えながら、實際にはスーパーが「疑似百貨店」化する傾向を示している。(毎日、950705)

(22)で、主體「米國」が「70年ごろから貿易赤字を續ける」ことと、「基軸通過の特權を維持してくる」ことは、互いに意味的に對立

している。(23.24)の場合も、前件「同じ學校で學ぶ、價格破壊を唱える」と、後件「いじめをする、實際にはスーパーが疑似百貨店化する傾向を示している」も、それぞれ、たがいに矛盾する事柄である。

このように、「ながら」節の述語が繼續動詞であっても、前件と後件が意味的に對立していると、「ながら」構文は、逆接に解釋されることになる。

意味的に對立しているかどうかの判断は、社會の一般的な慣習、常識に依存する、ということになる。

次は、肯定と否定が對立している例文である。

(25)(タヤスツヨシは) 皐月賞では、最も際立った末脚を見せながら、ジェニューインに首差及ばなかった。 (毎日、950529)

(26)ある分野では素晴らしい業績を上げながら、それ以外では生きられないという人もいる。 (日經、950628)

(27)共通外交・安全保障政策を目指しながら、過去四年も舊ユーゴで無力ぶりをさらけ出してきた状況はあまり変わっていない。

(日經、950629)

(25)で、前件「最も際立った末脚を見せる」と、後件「ジェニューインに首差及ばない」は、肯定と否定で對立している。(25~27)の場合、後件の述語は「及ばない、生きられない、変わっていない」のように、否定である。前件が肯定で、後件が否定になると、「ながら」構文の意味的な對立はもっと明らかになる。そのため、「ながら」節の述語が繼續動詞である場合、後件の述語が否定であると、その「ながら」構文は逆接に解釋される。

### 3.1.3 瞬間動詞

(28)きれいな着物を着ながら、どろあそびをしている。(鈴木1978:177)

(29)電車に乗りながら、半気でたばこをすっている。(鈴木1978:177)

(30)大學や高校を卒業しながら、就職が決まっていない「既卒者」が、四月時點で十六萬人と、四月としては過去最悪に達している。

(産經、950627)

前件の述語が幅のある動作でなければ、同時進行にはならない。瞬間動詞の表す事柄は、始まると同時に終わる種類のものである<sup>4)</sup>から、幅のある動作にはなれない。瞬間動詞の場合は、前件の動作が瞬間的に終わって、その結果状態が残っているだけである。そのため、「ながら」節の述語が瞬間動詞である場合は、状態性述語と同じような性質のものになると思われる。

「ながら」節の状態性の述語「ある」が逆接に解釈されることと同様、「ながら」節の述語が瞬間動詞である場合は、状態性述語と同じようなものであるので、その構文は逆接に解釈されるのであろう。

### 3.1.4 「ている」

この小節では、「**継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞**」に「～ているながら」が接續している形について調べてみることにする。

#### 3.1.4.1 継続動詞

(31) スウェーデンは競技面で冬季五輪に大きく貢献していながら、まだ一度も開催権を與えられていない。(毎日、950614)

(32) 松田さんのマイムは日常生活の中で、いつも目にしていながら、その面白さに気がつかないようなエッセンスがちりばめられている。

(毎日、950423)

(33) 傍らで、「東京に住んでいながら、結構知らないところがあるんだよね」とつぶやいたのが、(江戸庶民文化)愛好會の事務局長を務める馬橋廣司さんだ。(讀賣、950628)

「貢献する、目にする、住む」などは**継続動詞**である。継続動詞は動作を表すものであるが、**継続動詞**に「～ている」が付くと、幅のある動作、現象が始まって、その結果が今も續いているということを表すのがふつうである<sup>5)</sup>。

4) 寺村秀夫(1984)、「日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻」、くろしお出版、p.132

5) 寺村秀夫、前掲書、p.135

「ながら」節の述語である繼續動詞に「～ている」がついている場合、開始の結果を表すことになる。それで、「貢献している、目にしている、住んでいる」などは状態性述語になる。(31～33)で、前件の事柄「競技面で冬季五輪に大きく貢献している、日常生活の中で、いつも目にしている、東京に住んでいる」と、後件の事柄「まだ一度も開催権を與えられていない、その面白さに気がつかない、結構知らないところがある」は、たがいに矛盾している。「ながら」節の述語「～ていながら」が状態性述語であるので、その後件には前件と矛盾関係にある事柄が表れるのであろう。

#### 3.1.4.2 瞬間動詞

- (34) いざ日本に歸ると、學力だけがすべてではないと理解していながら、自分の子に「勉強しろ」とせかしてしまっている。(讀賣、950705)  
 (35) 幽霊戸籍とは、原爆で亡くなっていながら、死亡届を出す人がいなかったために抹消されていない戸籍のこと。(産經、910804)  
 (36) ハンセン菌が強い感染力を持たず、治療薬によって治癒可能と分かっているが、わが國は強制隔離などの差別を長年許してきた。(毎日、950513)

(34～36)で「ながら」節の述語「理解する、亡くなる、分かる」は、瞬間動詞である。瞬間動詞の場合、「～ている」は、ある過去(以前)のできごとが終わって、その結果がいまある状態として残っていることを表す<sup>6)</sup>。つまり、瞬間動詞に「～ている」が付くと、その述語は状態性述語になる。

「學力だけがすべてではないと理解している」と「自分の子に「勉強しろ」とせかしてしまっている」、「原爆で亡くなっている」と「(戸籍が)抹消されていない」、「ハンセン菌が強い感染力を持たず、治療薬によって治癒可能と分かっている」と「わが國は強制隔離などの差別を長年許している」は、それぞれ、矛盾した事柄である。前件の述語が「理解している、亡くなっている、分かっている」のように、

6) 寺村秀夫、前掲書、p.125



状態性述語であるから、その後件には前件とは矛盾関係にある事柄が表れるのであろう。そのため、(34~36)の「ながら」構文が逆接に解釋される。

### 3.1.4.3 第四種の動詞

- (37) (郵便貯金) ただ、民間の預金と商品性が似ていながら、金利面で有利な商品があるのも事実で、「金利差に敏感な人を中心に、郵貯に預け換える動きが出ている」(大手都銀)との批判が高まっている。  
(讀賣、950624)

前件「(郵貯は)民間の預金と商品性が似ている」と後件「金利面で有利な商品がある」は意味的に對立している。(37)の「似る」のような第四種の動詞は常に「~ている」の形で用いられる。この第四種の動詞はある状態を帯びることを表わす動詞である<sup>7)</sup>。

(37)の「似ている」のような第四種の動詞は、状態性述語のようなものになるので、その「ながら」構文は逆接に解釋されるのである。

## 3.2 形容詞系述語

### 3.2.1 形容詞

- (38) 田中さんは體は小さいながら、なかなか力がある。  
(基本語用例辭典:743)
- (39) 彼は背は低いながら、なかなかの男前だ。 (日本文法大辭典:597)
- (40) 年は若いながら、言うことはしっかりしている。 (鈴木1988:177)
- (41) 工藤も、長い道のりを経て上邊左右の白石をオサマリ、悪いながらまだ長期戦と見て白11十八(前譜最終手)スベリと自重したようである。  
(毎日:911003)

「體が小さい」と、「力がない」のが一般的なことである。しかし、(38)では前件「體が小さい」と、後件「なかなか力がある」は、た

7) 金田一春彦、前掲書、p.24

がいに矛盾している。(39~41)の場合の、「背が低い」と「なかなかの男前だ」、「年が若い」と「言うことはしっかりしている」、「悪い」と「自重する」も、それぞれ矛盾する事柄である。(38~41)のように、「ながら」節の述語が形容詞である場合、その後件には前件と矛盾する事柄が表れる。つまり、前件と後件の矛盾する事柄が「ながら」によって繋ぎ合わされている。

また、形容詞は状態性述語であるので、その性質上同時進行を表すことは出来ない。それで、「ながら」節の述語が形容詞のように状態性である場合、逆接になると思われる。

「ながら」節の述語が形容詞である場合のもう一つの特徴は、その形容詞はマイナス評価を表すということである。(38~41)の場合、「(體が)小さい、(背が)低い、(年が)若い、悪い」は、「(體が)大きい、(背が)高い、一人前である、よい」に比べると、それぞれ、マイナス評価になる<sup>8)</sup>。前件でマイナス的な事柄を述べておいて、後件では、「力がある、男前である、言うことがしっかりしている、自重する」のような、プラス的な事柄を述べている形である。前件が「(體が)小さい、(背が)低い、(年が)若い、悪い」である場合、後件は、一般的な常識としては、それぞれ、「力がない、男前ではない、言うことがしっかりしない、自重していない」というマイナス的な評価になることが豫想される。しかし、(38~41)では、前件がマイナス評価であるにもかかわらず、話し手は「ながら」構文の意味を、「なかなか力がある、なかなかの男前だ、言うことがしっかりしている、自重する」のように、プラス的に評価することになる。

「ながら」節の述語が形容詞である場合、一般的には前件はマイナス評価であるが、話し手はその「ながら」構文の意味をプラス的に評価している。つまり、前件では一般的な常識を述べて、後件ではそれに反する話し手の意見を述べる形式である。

8) (40) 年は若いながら、言うことはしっかりしている。

ここで、「年が若い」というのは、「経験が少ない」ことを意味するので、マイナス評価に受け取られる。

### 3.2.2 形容動詞

(42) (日本政府の景氣対策) 與黨や經濟界から要望が強い二次補正に關しては明言は避けるが、「經濟情勢を踏まえ、適切かつ機動的な財政運営を行う」として、間接的ながら秋にも編成する方針を示す。

(日經、950626)

(43) 極東ロシア軍は、依然として大規模な戦力を蓄積、緩やかながら近代化も行われ、アジア太平洋地域の安全に不安定要因となっている。

(産經、950630)

(44) 實驗の成功を祝し、ささやかながら慰勞會を催すことにしよう。

(日本文法大辭典:586)

3.2.2は、形容動詞の語幹に「ながら」が付いている場合である。

(42~44)で、「間接的ながら」と「編成する方針を示す」、「緩やかながら」と「近代化が行われる」、「ささやかながら」と「慰勞會を催す」は、微妙ではあるが、それぞれ、たがいに矛盾する事柄であろう。例えば、(44)で、「慰勞會を催す」ならば、「ささやか」ではないのが本來望ましいが、そうではなくて「ささやか」だという関係で逆接が成り立っていると考えられる。

3.2.1でも述べたように、「ながら」節の述語が状態性である場合は、逆接に解釋される。形容動詞も状態性述語であるので、逆接に解釋されると思われる。

また、「間接的、緩やか、ささやか」などは、マイナス評價を表している。このように、「ながら」節の述語が形容動詞である場合も形容詞と同様、その形容動詞はマイナス評價を表わす傾向が強い<sup>9)</sup>と思われる。

---

9)・後妻のりきは大政所、北政所のないの權古に御相手にするほどに堪能ながら、家のなりわいに采配をふるる質には遠かった。(森田1980:360)の場合、「堪能」はプラス評價を表す例である。しかし、「ながら」節の述語が形容動詞である場合、その述語はマイナス評價を表す傾向が強い。

3.2.3 「～ない」

(45)期待ほどにはいかないながら、何とか目的を達成できた。

(日本文法大辞典:586)

(46)歌う生徒らの間にまじって、わが子も歌っているのである。耳は聞こえぬながら、ふしは整わぬながら、大きく口をひらいて、高らかに歌っているのである。

(国立国語研究所:130)

(47)及ばずながら、あなたにご協力いたしましょう。

(基本語用例辞典:743)

(45～47)は、「ながら」節の述語が「～ない」の場合である。前件の述語が否定で、後件の述語が肯定になると、前件と後件の意味的な対立が明らかになる。「ながら」節の述語が「～ない」の場合は、前件と後件は矛盾関係になるので、逆接に解釋される。

3.3 名詞、副詞、判定詞

3.3.1 名詞

(48)同將軍は八十三歳の高齢ながら、最近も地方への演説に出向くなどきわめて健康。

(毎日、950426)

(49)日本は5安打ながら、井口の本壘打などで少ない好機をものにした。

(朝日、950524)

(50)(テニスのボリス・ベッカー選手)一九八五年、ノーシードながら弾丸サーブを武器に、史上最年少の十七歳で優勝した。(朝日、950709)

(51)「村山政權の命」と村山富市首相が意欲を燃やした「戦後五十年の國會決議」は極めて不満足な内容ながら一應、形にはなった。

(毎日、950702)

(48)で、「八十三歳」なら、「健康でない」のが一般的である。前件「八十三歳の高齢」と後件「きわめて健康」はたがいに矛盾する事柄である。(49～51)の場合も、前件「5安打、ノーシード、不満足な内容」と、後件「少ない好機をものにする、史上最年少の十七歳で優勝する、一應形になる」は、それぞれ、矛盾した事柄が「ながら」

によって結合されている。「ながら」が名詞に接續して、從屬節となる場合、その複文は逆接に解釋されると思われる。

前件では「八十三歳の高齢、5安打、ノーシード、不満足な内容」など、一般的にマイナス評價と思われることが述べられており、後件では前件の事柄に反した話し手の判断が下されている。つまり、後件の事柄はプラス評價を表すことになる。

(52) (本宮町の) 温泉は、無色透明ながらそれぞれ違う楽しみ方がある、  
入り比べも面白い。 (日刊スポーツ、910928)

(53) 私のカウンターパートはパプアニューギニア政府の大蔵計劃省に勤め  
るイギタ氏。エリート官僚ながら「直接、人に觸れる仕事がしたい」  
と、あえて農村開發を擔當した、その意氣に感じて指名したのである。  
(産經、911001)

(52.53)で、「無色透明、エリート官僚」は、それぞれ「中立的、プラス評價」のように思われるが、その背景の意味を考えて見れば、やはりマイナス評價のように受け止められる。(52)の「(温泉は)無色透明」は、「(色やにおいがあってこそ温泉らしいのに無色透明だから)温泉らしくない」という意味でマイナス評價を表すことになるものであろう。(53)で、プラス評價に見える「エリート官僚」も「人間味がないと思われる」という意味で使われていて、マイナス評價を表すことになるものであろう。一見、プラス評價に見える語でも、實は文中では使った人の何らかのマイナス評價がかかっていると思われる。

「ながら」が名詞に接續して、從屬節となる場合も、その名詞はマイナス評價を表す傾向が強い。

### 3.3.2 副詞

(54) その子はいやいやながら、庭のそうじを始めた。 (横林1993:74)

(55) 換氣扇の生産額は一九九三年度約千二百億圓だが、わずかながら増えている。 (毎日、950604)

(56) 細々ながら、暮らしております。 (森田1980:360)

(54)で、「いやいやながら」と「庭のそうじを始める」の二つの事柄はたがいに相應しないのである。「ながら」が副詞に接續する場合も、その副詞は「いやいや、わずか、細々」のようにマイナス評価を表す傾向がある。この場合、(55.56)の「わずかながら、細々ながら」の用法は「前置き」のようにも思われる。

### 3.3.3 判定詞<sup>10)</sup>「である」

(57)東京女子醫科大學の村田光範教授によるとこれ(小兒成人病)には、  
三つのケースがある。ひとつは小兒でありながら、すでに成人病にか  
かっているケース。(日經、911006)

(58)戦後の佛外交の力の源泉は國連安保理常任理事國で核兵器保有國、の  
二點である。加えてこの獨自外交によって、經濟的には中級國家であ  
りながら、國際政治舞臺では一流國家の地位を保持してきた。

(毎日、920204)

(59)地震國でありながら、「安全神話」によりかかり、行政も國民も備え  
を怠ってきた。(讀實、950624)

(60)EU側が問題視しているのは、同じ蒸留酒でありながら、日本ではウ  
イスキーなどの課稅率が焼酎に比べて四―六倍も高い點。

(産經、950623)

(57~60)は、判定詞「である」が「ながら」節の述語として用いられている場合である。(57)の場合、「小兒である」と、「成人病にかかっている」のが一般的な常識である。しかし、(57)の後件は一般的な常識に反する事柄「成人病にかかっている」になっている。(58~60)の場合も、前件と後件の事柄はたがいに矛盾している。判定詞は名詞と結合して名詞述語になる。その名詞述語は状態性述語になるわけである。だから、「ながら」節の述語が判定詞である場合は、その複文が逆接に解釋されると考えられる。これは、「ながら」節の

10)「だ・である・です」のように、名詞と結合して述語を作るのが「判定詞」である。渡邊 實(1971:408)では「判定詞」を、「統敘素材を缺く用言」として取り扱っている。

述語が形容詞である場合に逆接に解釈されることと平行的である。

#### 4. 「ながらも」

「ながらも」は、いわゆる接續助詞「ながら」に取り立て助詞「も」が下接した形である。「ながら」構文には、同時進行と逆接の用法があるが、「ながらも」構文はどのように解釈されるかについて調べることにする。

- (61) 6年目を迎えた臺灣プロ野球は、さまざまな問題を抱えながらも、たくましく成長してきている。 (産経、950708)
- (62) 電力の三割を擔っている日本の原発の現状は容認しながらも、これ以上の推進にプレキをかける意見が強まっている。 (朝日、880928)
- (63) 氣象廳は「一昨年ほどの冷夏にはならない」(豫報部)としながらも、半年よりは氣温が低くなりそうだと豫測している。 (産経、950705)

(61)で、前件「さまざまな問題を抱える」と、後件「たくましく成長してきている」は意味的に對立している事柄である。互いに矛盾した事柄が「ながらも」によって結ばれている形である。(62.63)の場合も、前件と後件がそれぞれ矛盾する關係にある。

次の(64)の「ながら」構文は、同時進行と逆接のどちらにも解釋されるような例文である。

- (64) へんじかこうと 目がさめりや  
なんのもみじの 葉がひとつ  
くりかえしうたって、いつかそれもやみ、しだいに遠ざかる舟にむ  
かってよびかける聲も細りながら、いつまでもつづいた。  
(壺井榮「二十四の瞳」)

(64)の「ながら」を、「ながらも」に入れ替えると、

- (64)a. くりかえしうたって、いつかそれもやみ、しだいに遠ざかる舟にむかってよびかける聲も細りながらも、いつまでもつづいた。

のようになる。(64a)の文が不自然だと判断する人もいるようだが、それは「も」が近いところで續くことが原因であろう。「よびかける聲も」のあとで少しポーズを入れるような読み方をすれば、自然に逆接の解釋ができるようである。

「ながら」構文が同時進行と逆接のどちらにも解釋されるような場合、その「ながら」を、「ながらも」に入れ替えると、前件と後件の意味的な對立がもっとはっきりしたものになる。この場合、「も」は必ずしも逆接の意味を表さない接續助詞について、逆接の意味を明示させるものである。「も」によって取り立てられたものが、後續の述語に對して矛盾する關係にあることを表す<sup>11)</sup>。

このように、「ながら」構文は、同時進行と逆接の意味で使われているが、「ながらも」には同時進行の意味で使われる場合はないようである。

次の(65~66)は、3.1.2での同時進行の意味に用いられていた例文である。

- (65) 醫者は患者の経過を見ながら、使う薬を加減する。  
 (66) 一人の盲目の少年は、見事に樂器を打ち鳴らしながら、古いセイロンの悲劇を歌っていた。  
 (67) 救急救命士は、醫師と連絡を取りながら、高度な應急處置を行うが、ここで必要になってくるのが、醫療機器と十分なスペースを持つ高規格救急車だ。

(65~67)の同時進行の「ながら」を、「ながらも」に入れ替えてみると、

- (65)\*a. 醫者は患者の経過を見ながらも、使う薬を加減する。  
 (66)\*a. 一人の盲目の少年は、見事に樂器を打ち鳴らしながらも、古いセイロンの悲劇を歌っていた。  
 (67)\*a. 救急救命士は、醫師と連絡を取りながらも、高度な應急處置を行うが、……

11) 紙谷榮治(1988). 「係助詞「も」について」『語文』(50)、大阪大學文學部國文學研究室、p.35



のように、(65a~67a)は、非文になる。(65a~67a)の例文が非文になるということは、「ながらも」には、逆接の意味しかないということであろう。

## 5、まとめ

「ながら」構文が逆接に解釈される要因について考察した結果をまとめてみると、次のようになる。

- (1) 前件と後件の意味関係が同時進行に解釈されるか逆接に解釈されるかは、「ながら」節の述語の性質によるものである。その述語が「状態動詞、瞬間動詞、形容詞、形容動詞、判定詞」である場合や、「ながら」が「名詞、副詞」に接続する場合、つまり、状態性述語の場合は逆接に解釈される。
- (2) 「ながら」節の述語が「形容詞、形容動詞、名詞、副詞」の場合は、逆接になるが、その述語はマイナス評価を表す傾向が強い。
- (3) 「ながら」節の述語が「~ている」の形をしている場合、その述語が状態性述語に変わるので、「~ていながら」構文は逆接に解釈される。
- (4) 「ながら」節の述語が継続動詞である場合は、同時進行と逆接の意味を表わすが、前件と後件の事柄が矛盾する場合は逆接になる。
- (5) 「ながらも」には、同時進行の用法はなく、後件に対して逆接関係にあることを表す。これは、「も」によって取り立てられた前件が、後件に対する意味的対立を明示させるからであろう。

參考文獻

- 渡邊 實(1971)、『國語構文論』、塙書房
- 松村 明(1971)、『日本文法大辭典』、明治書院
- 鈴木 忍(1978)、『文法 I』、國際交流基金
- 森田良行(1980)、『基礎日本語 2』、角川書店
- 寺村秀夫(1984)、『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ卷』、くろしお出版
- 文化廳(1975)、『外國人のための基本語用例辭典』(第二版)、大藏省印刷局
- 奥津敬一郎(1990)、『いわゆる日本語助詞の研究』、凡人社
- 金田一春彦(1976)、『日本語動詞のアスペクト』、むぎ書房
- 國立國語研究所(1951)、『現代語の助詞・助動詞、-用例と實例-』、秀英出版
- 日本語教育學會編(1982)、『日本語教育事典』、大修館書店
- 益岡隆志・田窪行則(1993)、『基礎日本語文法(改訂版)』、くろしお出版
- 横林宙世・下村彰子(1988)、『接續の表現』、荒竹出版
- 中川良雄(1988)、『「ながら」の意味と機能、動作の「並列」を表す場合』、『研究論叢』(XXXI)、京都外國語大學
- 中川裕志ほか(1993)、『「ながら」について議論しながら』、『第10回日本認知科學會發表論文集』、日本認知科學會第10回大會
- 江田すみれ(1985)、『逆接の「ながら」の意味と用法について』、『ILT News 78』、早稻田大學語學教育研究所
- 佐藤信夫(1983)、『逆説という修辭現象』中村明編『講座日本語の表現 5・日本語のレトリック』、筑摩書房
- 西原鈴子(1985)、『逆接表現における三つのパターン』、『日本語教育』(56號)、日本語教育學會
- 堀口和吉(1987)、『動詞の表す<繼續><持續>、-「ながら」をめぐって-』、『天理大學學報』(第三十九卷第一號)、天理大學學術研究會
- 紙谷榮治(1988)、『係助詞「も」について』、『語文』(50)、大阪大學文學部國文學研究室